新撰法令集

新撰法令集
巻三十

内閣文庫
和書
二七〇七五
三六
二〇一函
二架 冊 號 類

内閣文庫
番號 和 27075
冊數 36 (30)
函號 201 14

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり
糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

類題和歌集 巻第三十目録

雜部

帝王　神日本磐余彦天皇　活目入彦五十瓊殖天皇
譽田天皇　繼體天皇　豐御食炊屋姫天皇
院　春宮　親王
墨相　將軍　中宮
隱士　出山　隱士　隱人
物吉僧侶　優婆塞　夜尋僧
大隱在物市
淨侶夕陽　浦僧子　淨侶暮陽
老爲　老鶯年　老人
夜老人思　夢幾悲老　老人夜長　夜老人
夜老人思　夢幾悲老　遠心年老涙
客　行客　見行客　行客待人

明治十三年購求

月遠客　春望行客　遥見行客　閨路行客
行客休檐　行客吹笛　客哀家意　行客未返
系上行人　行人已路　旅人返檐　行人已檐
独行冥路　逸士　逸士越雲　逸士赤山
市客　高客　市行客　市商客
市旅客　近　入夜見佳妓　妓女
妓女対鏡　八女　狩猟　狩猟
山狩猟　漁　漁客　漁父
初漁　初漁火　晩漁父浦　漁父
清漁父　清漁翁　鴻漁客　漁父
樵夫　樵路翁　夕樵歌　夕樵
樵路夕　樵路月春　樵夫帰　樵夫路嵐

樵歌入山　谷樵夫　陰樵夫　樵笛夕遠
樵客情　海人　逸女　逸女
松中逸女　逸君　倦倦　倦倦
緑角　玄髪　奴僕　序乃倦倦
高情門歌豆　奇文女伝　房情山夏所　二條后
小陽宰相　衣通姫　大伴坂上戸女　在系中家豆
唐人　四皓　系寒　中勢
李太白　楊貴妃　李夫人　楚屈平
昭君背情　後宮妾　上陽人　王昭君
舞鶴稜年　舞鶴年久　筆字人心　舞鶴
心移延寿　雑心　遠情　人心不常
寒光遠情　幽思　月夕延思　笑遠情

幽思不窮　憂去依人　憂去同夢　悔消老飛
夜淚依袋　世路山何險　世間飄泊海蓬　閑淡
沐浴　結髮　與逝未央　與逝日夢
逝去催真　河邊真　春秋雖逝　夢逝遥春
雪砂　青　往昔　放書知者　放書遥者
放中忍者　遇友恋者　遇友恋友　遇友恋友
夢月往事　夢月忍昔　未来昔之　往事
月夢思往事　月夢思往事　月夢誤往事　思往事
猶思往事　老後思往事　梁法往事　往事
往事沈夢　往事如夢　往事聊荒　往事催涙
月催冬夢　月夢冬夢　月夢催冬夢　往事
面中冬夢　夢歌冬夢　朝歌冬夢　夢風冬夢
夢夜冬夢　夢夜冬夢　夢水冬夢　夢火冬夢
老後冬夢　夢夏冬夢　夢夏冬夢　夢空冬夢
冬夢念寂　法行冬夢　伊勢　太神宮
石清水　八幡　宇佐　賀茂
松尾　平野　稲荷　春日
康鴻　大原野　布留　住吉
月吉　太宮　二宮　聖徳子
八王子　客人　十禅師文　三文本地
之宮　梅宮　吉田　祇園
北野　芝布祢　三輪　熱田
玉津鴻　熊野　出雲　天児屋根尊
國夢立子　麦波澂武鸚鵡草　本宮　月夜見子
菁不合尊

猿田彦　下照姫　玉依姫　思兼尊
社　神社　浦社　社速懐
社所　社所天　社所風　社速懐風
社所夕風　社所夜風　社所朝　社所朝風
社所夕　社所夜　社所朝　社所夜風
社所水　社所夜　社所檜　社所檜
社所松風　社所松　社所松　社所松
社所遇夜　社所鶴　社所鶴　社所鶴
社所久　社所君　社所君　社所君
社所祝云　社所速懐　社所速懐　社所速懐
神祇　社所祝　社所祝　社所祝
奇夜祇　奇日神祇　奇月神祇　社所祝世
奇夜祇　奇雨神祇　春神祇　社所祝
社所雜　社所雜　社所雜
奇社所祝　奇社所雜　奇社所雜
奇風神祇　奇風神祇
夜神祇　夜神祇

社神祇　冬祇　朝祇　朝神祇
夜祇　奇花神祇　奇桃祇　奇桃祇
奇松祇　奇杉祇　奇杉祇　奇杉祇
奇蕨祇　奇桂祇　奇玉祇　奇玉祇
奇四季祇　奇桂麻祇　奇桂麻祇　奇桂麻祇
奇燈祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇蟹　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇日祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇風祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
夜祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇忱祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇水祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
社神祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
夜祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇松祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇蕨祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇四季祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇燈祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇世祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
月祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇雲祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
社祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇山祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇
奇海祇　奇麻祇　奇麻祇　奇麻祇

奇國役　奇郡役
奇松役　奇杉役
奇露役　奇露役言
遊年廣君　為君術世
奇蘇役　奇蓮役
奇世役　奇社役
奇祇役　治國栽樹
雜動物　奇風雜
奇山雜　奇多雜
奇川雜　奇市雜
奇衣雜　奇花雜
雜多　雜考

山家役多　奇竹役
奇樓役　奇苦役
奇龜役　久役君
役女人　奇民役
奇弓役　奇矢役
奇弗役　奇弗役之
雜天象　雜代儀
雜夕　奇蓼雜
奇稻雜　奇海雜
奇木雜　奇苦雜
奇魚雜　奇陸雜
雜香　文

地　北　乾　裏　火　青　黑　醜　礼　耳　貴　四
東　中央　民　秋　土　黃　耳　醜　智　鼻　一　八
西　巽　方遠　冬　金　赤　辛　仁　信　舌　二　六
南　坤　裏　木　水　白　苦　義　眼　牙　三　七

八　低　淺　遥　親　所　同　新

九　遠　深　速　疎　後　忙　舊

十　近　多　厚　視　左　清

雜　遠　迎

少　聞　聽　右　尚

類題和歌集卷第三十

雜部七

帝王　御集　大くらこよひのあるつるのいとまをつくるとて　惟宗孝言

神日本磐余彦天皇　新古今　夏ごろもかはり雨ふるとはいひながらなほ袖にしぐるゝ　大江千古

沛甘入彦五十殖芽天皇　後拾遺　池のうきすのまきれなくもの思ひけりとのみ　法橋

誉田天皇　新勅撰　年ふるまつのしたかげ　西三条左大臣

稚武天皇　後拾遺　くもりなくはるの海のうけるかくれぬ天の春はあるかな　藤原為忠

豐御食炊屋姫天皇　新勅撰　花とのみ年の内に天の春なれとまたもとの海にうけるかくれぬ　貞信公

院

春宮

中宮

親王　沙弥　吳竹のそゝ山代方の志をれば宿る月は新しかりけり　順徳院
義相　同　三笠山峯の梢よりあらはれく星の光ぞ〻〻しき　同
将軍　家集　まさきのかづらくれなゐの紅葉ぞ〻〻しき　同
僧人　増鏡　いとゞ秋ぞ〻〻しきもはの霜ぞ〻〻しきと苔の中にも
張士　集上
張士出山　彩陸記　石ゐのしたに我宿の代を出てそゝく山の奥にをしむ　武内宿禰
新撰　花をもつ春を人なる出にけり入あり月は高の山ゝ　紀貫之
山住も出てゝ世にやうの人をはぐくれ君をいき　伊勢
ゝ代落ぬ人をあこ者ゐそれ人かんを　道綱母
日の光ゆるゆめくゝ白もは生れ春も山と出ぬて　同
野張士　十帖　たゝしゝ世ゝ世ゝ世

老

老人

老骨

老然年

老人枝長

西京老人

西京老人思

射徒然老

射鏡知身老

遠心年老深

名

行客

見行客

行客行人

月遠客

著色行客

開法行客

遠見行客

行客休橋

行客吹笛

付客未詳

蓑衣蓑重
蓑と行人
行人と路
り人と橋
張人後橋
徒約同路
徒士
徒士出山
越士越同
市者

市商客
市商客
市行客
市旅客
遊
妓女
入形見侍妓
妓女狩猟
八女
猟師
狩猟
山狩猟
漁

漁父

漁客

釣漁

釣漁火

曙釣火

漁父出浦

漁父

漁漁翁

釣漁客

萬葉

拾遺

[illegible]集上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]集上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蕉路西

夕蕉夫

夕蕉歌

蕉路夕

蕉後日著

蕉夫帰

蕉路鼠

蕉哥入山

谷蕉夫

決蕉夫

蕉留安宅

蕉客情

西人

蕉

文明三年
六十八
後柏原
上皇
子育

円

宝

新撰集
廿九
弘安春二十
文永九年
永禄五年後撰集二十八合
円

寛文二年月
円東序
日本十月一日
飛脚
後拾遺
愛宕参詣
秋長今
八

信量

行仏

雅世

竹志

円

道遠

後教

処方

紀国

法書

後人本

円

[illegible]

玉葉 十八
味方 大
家集 文本ナシ
建久八年ノ詞書ナシ
後撰 七
十首 伯爵家 七百首 明月記 集上
同
伯爵家 七百首 家隆卿百首 文本ナシ 奥書ニ建久百首 同名
同名 伯爵家 俊成卿
同

海辺

舟中恋女
恋歌
恋俱
春秋恋俱

海辺

家隆卿
紙屋
二條后
宮内卿
文女房
後撰 文本
在家中納言
小野宰相
衣通姫
天仁恋上奉女
中務

海辺

海辺

海辺

唐人

奥意元 開原百首 寛勝四天王院歌合 唐人のこゝろを

きそしたよりやまいく人の袖ふる波に年はくれけり

俊恒院 文長百首 唐人のこゝろを

玉藻の浦こゝろ長き人なれはこゝろ遠くかよひけの海

問

とそゝろや玉の白浪なれはこゝろ遠くかよひけの海

唐人はこゝろ玉とそ思ふ玉しくしくこゝろ通ふなりけり

嫁きとはいふとも人のこゝろ袖とはこゝろ唐

海原やこゝろ通ひけりこゝろ唐ふりこゝろ

こゝろ人の袖にこゝろ白玉はこゝろきひりこゝろ

かゝる玉代人とてやこゝろ世とてこゝろはこゝろ

ねはこゝろ唐と南山に入しかと又ひきわれる世にこゝろ

人にはね菜こゝろ戸にこゝろ唐と乗しひろきこゝろ

結ぶこゝろ唐にこゝろ唐とひろひこゝろ山井の水

安家にこゝろ人にこゝろ唐ひろひこゝろ

水茎にこゝろ人にこゝろ唐と世に白雪

光明皇后 文治百首 義法師 孫仲 仲孔 信孔 忠房 光房 光隆 大進 法華経 基俊 法光行 二条院 光俊 雅経

原憲

禁廷原憲

李太白

李夫人

玉藻十八

まくらの玉代玉代にあきて黄代枕の紫りとそきく

枕草子 五月

まくらの代つくに代枕て代枕しとに玉をねた

万葉

七夕八今もつ代代枕しに代玉とに解てしとに八かう

雅慶

こゝろめとく玉代柄し紅わけく袖と清ふ世人を思さ

万葉

唐人に弱川こゝに紅しあり玉の結こゝ人紫こゝ

二条天皇 文文武 太宰文武 二条

世中と人に代こゝに代玉の代に清ふ玉とはれて代そゆけ

こゝ白めこゝて代結ふ代しき八玉に代と人とみに袖こゝ

玉風に多こゝと玉こゝ玉こゝ玉の人代西けこゝ

玉八玉ちる所に代こゝ代結こゝ代結こゝ

九重代玉の今きりに玉代こゝ玉代玉の玉

こゝ代こゝ代玉代こゝ代こゝ代玉代こゝ

尺こゝに代玉代こゝ代こゝ代こゝ

かゝるこゝ焼こゝ代こゝ代こゝ代こゝ

枕宣旨 玉藻 玉藻 万葉 雅慶 宣旨

三部書

家集 なれにしいろの櫻もうつろひぬ　雅有
家集 ゆくとしの数をしらるるかなしさに　長方
はるかなる　なにもまさるなり別れ里とふるさとの　赤染衛門
同 なつかしきやどをあとにとはれてはいとうきんりのことは　信盛朝臣
同 なつかしひは流れのけのはてきぶらはらまやの　懐奏作者
於遠国 うらぶれてくるりのけしと秋ふ流れのまつはてきぶ　定家
冊子ノ歌百首 いにしへのわを井にきくれて月のうつるかげ　力丸
同 かつ見るうめて見ぬ松のみきて山里のうつる　左衛
同 恋しくも流れのけと秋てもたれとはてきぶ　力盛
同 流れのけとはてきぶ　雅仲
[illegible] ゆくとしのうつるかなしきのをはてきぶ世はてれ　仲実
同 ゆくとしのうつるかなしきのをはてきぶ　信実
[illegible] 作しきぶ秋とはてきぶ　信盛
[illegible] なつかしひはてきぶ　懐奏

なつかしひはてきぶ　雅有
[illegible] 世はてきぶ　左衛
同 なつかしひはてきぶ　赤染衛門
[illegible] 流れのけとはてきぶ　信盛朝臣
[illegible] 流れのけとはてきぶ　懐奏作者
[illegible] 流れのけとはてきぶ　定家
[illegible] 流れのけとはてきぶ　力丸
[illegible] 流れのけとはてきぶ　左衛
[illegible] 流れのけとはてきぶ　力盛
[illegible] 流れのけとはてきぶ　雅仲
[illegible] 流れのけとはてきぶ　仲実
[illegible] 流れのけとはてきぶ　信実
[illegible] 流れのけとはてきぶ　信盛
[illegible] 流れのけとはてきぶ　懐奏

[illegible] 流れのけとはてきぶ　雅有
[illegible] 流れのけとはてきぶ　左衛
[illegible] 流れのけとはてきぶ　赤染衛門
[illegible] 流れのけとはてきぶ　信盛朝臣
[illegible] 流れのけとはてきぶ　懐奏作者
[illegible] 流れのけとはてきぶ　定家
[illegible] 流れのけとはてきぶ　力丸
[illegible] 流れのけとはてきぶ　左衛
[illegible] 流れのけとはてきぶ　力盛
[illegible] 流れのけとはてきぶ　雅仲
[illegible] 流れのけとはてきぶ　仲実
[illegible] 流れのけとはてきぶ　信実
[illegible] 流れのけとはてきぶ　信盛
[illegible] 流れのけとはてきぶ　懐奏

上同 [illegible]
家集 [illegible]
百首 [illegible]
家集 [illegible]
西行集 [illegible]
稿 [illegible]

[illegible] 雅有
[illegible] 左衛
[illegible] 赤染衛門
[illegible] 信盛朝臣
[illegible] 懐奏作者
[illegible] 定家
[illegible] 力丸
[illegible] 左衛
[illegible] 力盛
[illegible] 雅仲
[illegible] 仲実
[illegible] 信実
[illegible] 信盛
[illegible] 懐奏

[illegible]

[illegible] 十六

[illegible] 雅有
[illegible] 左衛
[illegible] 赤染衛門
[illegible] 信盛朝臣
[illegible] 懐奏作者
[illegible] 定家
[illegible] 力丸
[illegible] 左衛
[illegible] 力盛
[illegible] 雅仲
[illegible] 仲実
[illegible] 信実
[illegible] 信盛
[illegible] 懐奏

拾遺集 わすれぐさ十九

玉葉集 三十六 平合

後撰七 六

玉葉 大 わすれぐさ十六

わすれぐさ

後撰集未 最上方

上陽人

別きこゆ〜宮ぢの雪ふかくこの世のうきをいとひ菊の露

ゆらゆらとる松のとりて光ゆて秋むも世ゆ長ける寿

春ぢ山人松人ゆ人とひの枝ゆ〜三代にも今ハ秋に寄るの

松の戸ゆとゆらゆ枝ゆ〜ゆりゆるゆ春ぢ山ゆ世ゆ和ゆ

陰ふるゆ〜ゆ〜ゆ〜

心神延寿

雑心　風雅十九

遠情

暁を情　白川方　吉田

寂光遠情

尚思

月前延思

夕尚思　住吉方　吉田　二十首

尚思不窮　竹内　東永

憂喜使人　已上月

柏

右

集

憂喜同歌　柏

右　何とうれしかりけるかの祥代まいりあうかりければ世よ　道遠
梁　歌をこれいかに出るとも始てさと神よはじめも咲ぬ　政和
いたもうれ袋とくさ花欲しいはいとは咲ぬ　為孝
花れ世まそくらの花乃衣を袋衣用しまうさわ　後徐
ちろ、はるかの祥をうかこれあ、しのとかもくて　拾抑
をつ、心れるのうはとそこはいろ波ものし　非親
ろうをもそろうこ雲雲濃れむ〇代用はなそ　道遠
いもや心れ月八月をんろりあろ秋もろり雲秋を　力長
祥をくをんをこ代もをくる間とあろくに祥よどけた　拾抑
祥のこれ祥もこうかはくをれ無いらに代老の祥をう　道遠
ろ袋れく紙とむろくれくう間よせ代祥と新ろ　後徐
世ろこうむまろ拾祥を拾く雲れ祥いうせん　四善
をれ〇袋れあ〇〇をを分をを雲れ祥の〇行り祥をを〇お　政和
ろをて知ろう波ろうこ袋たりををれけ〇こ袋りを　右候

世路山河険　橋　袋代千川せのはをを人公をうをこ世ろいろを拾し　拾遺十八
世間飄泊海金邊　三蓮詠二　梅ををを大海宋よ切無法ろうろ代世といくよさん　赤門院
閑談　九集　しろをもをを月新の宋を代新ろをの宋を人　北條
都書三集　是作のをれをろををろををれわをしろ代をを　花宗

沐浴
結歌
奥越未央　後撰七百首　ちはやを遠くをまを行をを春花ふまわをを行を日新をを　貫季
奥越日記　千首　あや遠くをまを行をを春花ふまわをを行を日新をを　浮雲
花山僧奥　拾集　古好山花や紅葉の切りをを代ふを代ふを代ふを代ふを　義張
西民演　袋木集　を林の山やいれをじまそ切代を代を代をを代をを　政和
川逸奥　九　拾遠五集　をををにやきのいををををををををを代を代を代を代を　後拾
春秋野遊　奥外　同野代家を旁をを代れわを月代小ををををを代を代を代を代を　宝家
野林長寿　立をを同野代家を行をを代れて花を紅葉を春花を別れを　同

楊孟文代とへわくくみてのくまれくをたてうろ山ふかう　加茂
紅葉てもちろれたれよ　同
あのこれ表こそてとも同冊のを書にうつをれれそ　同
世くよそ花ーとろれいかせりいくをれと添こうん　同
見ちりくじうきれいくちうきれ春の林よ葉見　紫式部

野辺送年　同
忍砂
肯
往肯
投書逢肯　四百番歌合集上　為法師
いゆくにてれたれ春きたりを前の年れけくそ京　藤原俊成
見ろくこれよ春の風とそくるおじくれ人の笹をとの　藤原公経
世ーて人肯れ又よ何ようれちうこけしめのむけくく　長和
流をれ世にもうしたりのたをうにあくうろ山と　藤原家隆
ちーとく笹よ何のまま焼をにとそれ市ーかく　道蓮
心けうとうとうれ春の松とけとるーてーこうくき　源俊頼
ひーやいるうこれと流の三て今とを世のことをうーん　内裏歌
ゆをれ肯れ世ちうとをくうれとくみち鏡ーん　摂政太政大臣

投書知肯　往来ちう大文肯

逢交恋肯　山家集
遇交恋肯　新勅撰　十八
逢交恋交　後子歌　十八
恋中恋肯　
射月恋肯　拾玉

未恋肯歌
往年
秀月往年
月前恋往変　後拾遺　十九　新拾　十九
月前恋往年
恋往年　拾玉

今ーと心肯流八ーせんちやくーきまてよ神ーたれろう　西行
年ちれくるろやくーと八昔りて西新のをうけろーゆろ　定盛法師
ひーゆ京まれ間ろこふ秋八我身と林のをーれまりをり　
めろうちよ月とみろけしくろうれちくへくうをて　
流ーて花ちーくと恋ーき月とてろうけちくこれ　後三条院
春ーれ恋のこうを八見ねれと西新くーれまれそくーうか　法性寺入道
ろ恋のひーれ流よをくーく八見ねーと恋ーん間ゆをう　少家
心ーくくと恋ーい恋ーて添れいをうてをくこーくうろ月ーれ　出羽弁
めろうちーを年れ月よいくーくーいてーうくーれをこふーん　少弐
恋ーいをうちう世のけーくの昔ーて恋ーいくとーて山今ーの月　秀歌
流ーうをこーくとをふりに所ろやをてーをやくくーん　長和

懺悔往事

十首

作りくし義をわんきいかゝのこゝろ侘人のなかるゝ人　俊成

老後懺往事

十首

春ゝ過ぬるいまは数なれぬ昔思出のとゝろは　俊成

閑談往事

十首

みくもれ間よりひかる月かげ世にしらぬ空の光ぞ　法眼慶

往事催涙

法眼慶

なるまに現れ義とうりのゝ八雲なる世にしらぬ空の光ぞ　藤原定家朝臣

往事仰義

法眼慶

なにてと心に出れ給きもしたきこゝ義とたのやはすの　右兵衛督

法眼慶

しるべもなく現と社じるなこゝろ元義りきゝ　法眼慶

往事少義

法眼慶

見れと八一義れ義とみしゝ親のいるあう涙て久しく義　法眼慶

涙手義

うはゝとも義とも見られとうつゝと今八涙ゝ　藤原行盛朝臣

往事聊感

千首

さゝる物ゝ義ゝ者ゝ物ゝ元現なりきり　俊成

百首集

約束ゝゝ義れゝ物と百ゝ元現なりきり　藤原行盛

物

見ゝ義ゝ物ゝ義ゝ物ゝ義ゝ物

同

これや我、つまう現くとうれさとをこのうてもなわ人きうか

上面ハ雪

わけうらわらもうて岸の孫の業何ゆうせうせ初めえ

光定集
家ハ大ヨリ

いつうけきいつをこの人さうるれハ世をてて人のさうん

新

同

皆人のさうるいうくうもうねうるうるうる

同

同

後千

新拾

拾遺

後千

千載

夫木

風雅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

漢觀金帝　同一　めぐれる人のうつりかはりの世代のうつりかはりの
長義金帝　彩状　世のうつりかはりの人数の代々の義と云金沢
　　　　　　　わたる川ひとたび彩きして世の義代々
　　　　　　　まつりの代々のうつりかはりの
寿宣金帝　十首　宣旨ひめのきみとみたまひしかれども
金帝金剛　和十　多人山ほとれる絵をはほやとくれたる焼ろうん
　　　　　　　ろうかねて色にうつりとたしとさとたしとさとたしとさ

松尾

[illegible]
[illegible]
[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日吉

大宮　千貫　耕屯
二宮　円　宗兼
聖真子　拾石　宗兼
八王子　円　
客人　信太社　
　　千貫　
　　円　
　　後長橋　
　　新大原　
　　円　
　　月清　
　　円　
　　円　
　　已上円　

十禅師宮　後長橋九　
二宮　後松殿　
樹宮　月清　
　　信太社　
　　千貫　
　　円　
　　玉葉　
　　拾石　
　　信太社　
　　千貫　
　　円　
　　拾石　
　　円　

祇園

耕屯　
宗兼　
円　
宗兼　
耕屯　
宗兼　
円　
宗兼　
耕屯　
宗兼　
円　
宗良　
耕屯　
宗兼　
円　
宗兼　
耕屯　
宗兼　
円　
宗良　
耕屯　
宗兼　
円　
宗兼　
耕屯　
宗兼　
円　
宗兼　
耕屯　
宗兼　
円　

信太社　代くらけて海もくろうや昔より神代宮と八百八の股　宗良
千首　世代をさせつきわたる白川の神のこころの両社をたれ　耕雲
同　ゆそ多たくのひらけ万代神宮をたとし世をもたれたる　宗雅
於玉　神やゆ海りとうて代小野の社よ光りつらん　義法
同　九重代小万世代の三和社いはしとれもはつ　同
信太社　九重代小万世代の神よ伝り代世をそ　宗良
千首　神もよおわれやうを人をそて神きて万社の縄　耕雲
同　長くあうけよ小神代玉法よりとりの四ら代宮人祭　宗雅
於玉　くて海より又山藏のきこ上代川西ちり万蔵ちて　義法
同　芸能川ちて万四法ちて上ちて久万まと神代　同
信太社　きこ和川あちり法万ちくよ和ひとそよ春りけん　宗良
千首　世万くちよ我こ世ちて未和川真代ちとに行ひ万ち　耕雲
同　芸布神川ちたくもこのこと玉ちとちと代や行人　宗雅
於玉　法ちちこ玉八宮ちて代の西ちとへこちて代文万久神宮　義法

貴布祢

信太社　代くらけて海もくろうや昔より神代宮と八百八の股　宗良
千首　世代をさせつきわたる白川の神のこころの両社をたれ　耕雲
同　ゆそ多たくのひらけ万代神宮をたとし世をもたれたる　宗雅
於玉　神やゆ海りとうて代小野の社よ光りつらん　義法
同　九重代小万世代の三和社いはしとれもはつ　同
信太社　九重代小万世代の神よ伝り代世をそ　宗良
千首　神もよおわれやうを人をそて神きて万社の縄　耕雲
同　長くあうけよ小神代玉法よりとりの四ら代宮人祭　宗雅
於玉　くて海より又山藏のきこ上代川西ちり万蔵ちて　義法
同　芸能川ちて万四法ちて上ちて久万まと神代　同
信太社　きこ和川あちり法万ちくよ和ひとそよ春りけん　宗良
千首　世万くちよ我こ世ちて未和川真代ちとに行ひ万ち　耕雲
同　芸布神川ちたくもこのこと玉ちとちと代や行人　宗雅
於玉　法ちちこ玉八宮ちて代の西ちとへこちて代文万久神宮　義法

三嶋

信太社　ちて代ちとに神代ちとくてちちりわちやちへ　宗良
千首　神の代ちちに八宮ちを代を海ちて代安海のみち　耕雲
同　ちちりおちと玉ちちりの神代ちとちちりの代ちとちちの代　宗雅
於玉　大和海ちちて代ちの代ちちの代ちて宮代法　義法
信太社　代ちとちちりちのちの代月和ちちちちの法　宗良
千首　ちて宮ちちれちちの三嶋の山今り来神代行ちち　耕雲
同　たちひちの代ちとちと三嶋の山今り来神代行ちち　宗雅
於玉　神ちちちちちちの山今り来神代文れ宮　義法
信太社　神代ちと神代神ちと人玉法ちまちちちの代ちの　宗良
千首　ちちの来代ちちちの人玉法ちまちちちの代ちの　耕雲
同　年ちちの法ちちの人玉ちちの代ちの代ちの　宗雅
於玉　ちちちちの宮ちの代ちの表ちの玉法海姫　義法
同　ちちれちちちの代ちの代ちの代ちちちの代ちの　同
信太社　ちのひ神代ちちの代ちの海ちの代ちの代ちの　宗良

千歳　同

本書　猪田　国常立尊　疫波激武鬱鶴草苣不食尊　月夜見尊　天児屋根尊　同　猿田彦　下照姫　玉依姫　異兼神

社　神社　浦社　社述懐　社頭　社以天　社以風　社頭初風　社頭夕風　社以秋風　社頭暁　社以朝　社以夕

社以葉
社以秋
社以横
社以水
社頭横
社頭梯
社頭杠
社以雪風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

社頭久
社頭祈
社頭述懐
社頭述

[illegible]

[illegible]

[illegible]

杜鵑紙

[illegible]

同上同　月花集下

家集

西行集

同

雪

山集　後拾遺集

杜鵑紙

[illegible]

同

家集

山集　拾遺集

杜鵑紙

[illegible]

同

家集

山集　拾遺集

杜鵑紙

[illegible]

同

家集

山集　拾遺集

杜鵑紙

[illegible]

同

家集

山集　拾遺集

杜鵑紙

[illegible]

同

家集

山集　拾遺集

杜鵑紙

[illegible]

同

家集

山集　拾遺集

杜鵑紙

[illegible]

同

家集

山集　拾遺集

円

円

後方今

円

已上円

後拾遺

円

已上円

新古今

円

已上円

玉葉

円

円

後拾遺

円

已上円

新古今

円

円

[illegible]

[illegible]

[illegible]

多四とく方代よりのことなくよ祈し奉らりてそうろう
色のこれをこまのの祈よりとくなりしとれてこに世と行ふ
祈恒りの山とゆりてれまのひとりのいそいけん
流れて祈もいく代とそうろう大天所今こうちをて
祈ひのこつふるる家の風ひてつくくも世成ひるの
炭代に書りて炭と伝ひとなく万代まてに書そうろう
三笠山祈のめくしにてこうてそうろう中民祈
三笠山祈ハをてしとそうろう身に法ろ祈ものれ
そうろうこに移し表ハ長行と奉とうけよかりの川あり
祈とよりあるはよりやうあ縄ものれ書日に行のそうろう
大ひえや祈こうけとあれ書うしも同じ三輪に祈恒
ひくはや祈とうに流あり祈をれまれたのもに神
八十まてとの社よりくきて行ってそうろうけそりきり
然くあひひりこれ天のまれとそうろうけとあれてに祈

祈ア書
悔伝世
祈ア数
平門祈
祈ア長
北向法
作製
中民祈
大中臣
泰方
後成
祈ア数
天仁聖
変仁
後鳥羽
祈ア
後鳥羽
天仁聖
変仁
祈ア
後鳥羽
祈ア
後鳥羽
中臣師光

山とうに祈とあるれ出しちのまてふくう祈じ祈ものれ祈
ひくくはのくくあのくくもちに代うけて祈ねに言葉に代ほまれ
よのひぶりうあ春に代天后り祈れもあり玉ほうよ祈
うちう山内外の天れ天祈敗ハくちねしこ長とに天
祈見うこれしもう納りあ天野を日代ひをて世ハ
世くくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出でし月かも　安倍仲麿

我が衣手に露ぞおきける　在原業平朝臣

難波潟短き芦の節の間も逢はでこの世を過してよとか　伊勢

春の夜の闇は何ぞと人問はば答へまし　同

春の山辺にまかりて桜を見侍りて　西行法師

春の山辺にまかりて桜を見て　同

春の山辺にまかりて桜を見て　同

春の山辺にまかりて桜を見て　同

[illegible]祇
[illegible]祇
[illegible]花祇
[illegible]祇　千束
[illegible]祇
[illegible]祇
[illegible]祇
[illegible]祇
[illegible]祇　已上
[illegible]祇
[illegible]祇
[illegible]祇
[illegible]祇

[illegible]祇　同
[illegible]祇
[illegible]祇
[illegible]祇
[illegible]祇
[illegible]祇
[illegible]祇　已上
[illegible]祇　五束
[illegible]祇　同
[illegible]祇　同
[illegible]祇　十束
[illegible]祇　三束
[illegible]祇　同

慶賀

殺

[illegible]代は久しく久しく流れ流れて
[illegible]世は[illegible]代も[illegible]天代や[illegible]月日の[illegible]
己上同　寿日山那代南[illegible]
新勅撰七　天[illegible]
同　八[illegible]代は人[illegible]や玉[illegible]
同　[illegible]
己上同　[illegible]
後拾遺　[illegible]
後撰九　[illegible]
同　[illegible]
新拾遺　[illegible]
風雅　[illegible]
同　[illegible]
同　[illegible]

新千載　[illegible]
同　[illegible]
新千載七　[illegible]
同　[illegible]
己上同　[illegible]
新勅撰七　[illegible]
同　[illegible]
新後撰七　[illegible]
同　[illegible]
同　[illegible]
同新後撰　[illegible]
新拾遺六　[illegible]
玉葉七　[illegible]

同

同

後堀河

同

巳上同

後松林

同

子

後拾遺

同

後冷

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

巳上同

続喜

永法の百年　同　寛暦二壬戌年　月法集上　玉葉集　同　同　已上同　万葉　同　同　万葉

[illegible]代八百代まで[illegible]
[illegible]
万代と申世とし[illegible]
[illegible]代へくくろ[illegible]
[illegible]
[illegible]

八茶社
六月社
寿量社

[illegible]
[illegible]
[illegible]

杉檢校言
杉水校
杉海校
杉巖校
杉都校

杉國校
杉赤校
山家校言
杉竹校
杉松校

同

千代のすみかとなれりき　力丸

春くれば　力丸

千首

千代のすみかとなれりき　力丸

千首

春くれば　耕平

千首

春くれば　力丸

千首

春くれば　耕平

千首

春くれば　耕平

千首

春くれば　耕平

新しくうの神もうけのをみしめの縄のくくり行るもうけを
神祇山より之代生し天はしいくちよ長よ長りとく法華
法華経
経されてる代もりけるよいてるみちのひ長くみもりの代
ちりやうる神代無人のちりまよ入うひあるまの代れ
実法の百首
円
あうこれ〜西くもの法華のをくちりくるひの代のうさ
ちりくあう神のこうちの代うの縄のくくしの代れ行未
神うれれれいしうの榊うこれの代のしうと長りけへて
賢長寺
己丑円
千早振と云て榊ゆうりて行うこ長うの河代生まあ
千代民部
家集
うくうの神代あひしうと長ゆ代まで千年も限せ
法師
家集
みうくうこうの神代をこれ云へきこうの代をこれ法代うの張
増鏡
建久九年
伊勢代神宮の長うの代より生て十五うの代より生て
如花
円女
円次
うの月山松ふく風代をれ代をこ天ゆうこうの代のこ
如家
円
長うの代のこうこと長川の岸れ松しこうこうこと
白峯
風雅

神風や八重代生て長川の長こうこうけさ
文屋
円
長代の神とせけるやうこん生て長生こうこうこ
内大臣
円
長代とうの代こうこかこうあうこれこうこ
為夫
円
長世こうこれなる山上のちりもせ松こうこ
為氏
家集
うこうこ山上こうこれの榊うこうこうこ
法師
二十番
千分
ちこれこうこれの榊うこうこうこ
左信
天慶集
九
神代をくるもうの代のうこ長生こ
仙内
円
八百万長ほの神代をくるもうの代のうこ長生こ
ト部兼豊
円
うこうこ生こうこやまこうこ長ほのこうこ長ほ神やうこ
あうこ
大
円
長門の山とうの世代こうこうこうこうこ法ハうこ
先宗尾
内大臣
家集
円
いうこうこ鏡の山松の山こうこ千年のくこうこ
前信心
良経
円
永安三年
十月九日
あうこ
十七
しくこれくこのひうこ長生こうこの法ハ川のあこ山のうこ行のまうこ
仙洞
円
永安二年
十月廿日
和歌の浦やみうこうこの法ハうこ長生こうこ法ハ
法皇
円
雄こうこ世代細こうこ長代こけこうこの長こうこ法ハこん
円

国学者
歌集
新天象
新地儀
新初物

雜夕

安市雜

安山雜

安水雜

安橋雜

安海雜

安川雜

安市雜

安永雜

寄若雜

寄衣雜

安秋雜

安永雜

安浦雜

雜色

雜夕

雜奮

天

地

東

西

南

北

中央

巽

坤

乾

艮

方違

春

夏

秋

冬

木　火　土　金　水　青

月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外

五月雨のふるひくれぬれば松の梢きにうき民とのわかれかな　信義
ふるかの民の面とれ独りとも和山のあれりをちかた　定家
里ちかくたきこの人くれも男共よれとりとはれかなり　信義
山ちれ独れかるとされとも社の夫の光とかろ光くりや　定家
をーうくあの人ト言知ちつちとりくてみと社きけ　信義
いきうめー独もちれちうはめちりあれちこれ海山　定家
うんよまて金れなりしうる社八竹けにみくうろ〇かう　信義
雲さして月新をうこ風がられとの秋うを後のとこ　定家
きーくをむあれ山の山ちてきにれを屋ろう月れ新　信義
り来うれとのちくく家八うあとあれ来八ちう彼　定家
彼あ〜〜ふ岩れの苦しみまてと社八ちけとうはけとうり　信義
うし行し年ちうの光れとうちの五代龍にうあ上八八　定家
人事中和を事実日と秋と秋とうれ秋八ちれもうこれとの光れ　西行
おくとうとうれれ表八ちれもうこれとの光れ　西行
ひまそれう鳴のふきひろうちよ湖の岩れけしれちう　定家

月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外
月詠集下
拾遺集
玉葉外

黄　赤　白　黒

社て日の光りれ十人よりく黄れ八ちよ海ひあるれ　山家集
枝ちうは黄の秋を花ちうてちうれの春よ枝ちうこ　定家
りちうちやよ代よてうをむ川八日の年とも名よ流ちり　長秀
おうれき黄れ黄八月の年とも名よ流ちり　長秀
河面つうをし日新よちあれく紅葉とちれ春のうし　信義
ふ黄葉八ちうそうち黄れちうちあちりちうん　数寄
春ちうむうの白黄ちうく千春氷ちうちう月や雪けき　信義
白千代八きくちう黄れ山ちうう宝ちうく海は川八　定家
年春れ月ちうよとのちうこちうちやちうしあ雪を海　信義
ちうれちうれ山れ黄ちうしうる白黄れ春ちうよ海ちうちやちうん　数寄
をちうれ山れ黄八ちう黄に海ちうちうちうと海ちり　信義
鳳凰王れやこのちうれちうさやれ春れてうれ春れこと春ちうこ　定家
むちうこ武れ陵寄の月ちうを海ちうれ八かの海ちうそう　定家
山ちうとひちうこ大ちよ春れ八ちうよちうちうちうちうあの秋　数寄

幸 幸 若 破 破 仁 義 礼 智 信 眼 耳 鼻 舌

水無瀬殿文庫和歌懐紙

みとりなれ家ことのくさにかはらぬ色にはるはきにけり　後鳥羽院

くもゐにてちかくわれとなれ浦人のなきせぬこゑもちとしのはし　宗尊

あしのはにて文と所望あるあちらへと宮内卿をもてなかす　基俊

あそこもわれとこころとありけれはおもひたちぬと我マこゝまり　家世

巳上月

まつの世にたちなれとこひたちやけくくとかとをくわつとん　光隆

水無瀬殿文庫和歌懐紙

なにしおはゝこのすゑをかすかに人はかりのおもひたつあし　定隆

わすれはてけりのすゑをしとしとれてこゝにかやはへ　基綱

白ゝそこにこれはなるまやまにて紅にあるねはゆくを　教国

世にくもまいてくもにはのゝ人をもそれ　基氏卿

巳上月

意 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 百

初や何れにつもるらん宵れひまなくそよとてくるいてきん　実躬

しらなみのなれしく人をくゝと指と世にうきてきて　義夫

天地とこゝれねさにかをけりとれたるかとかちにしを　基俊

ちりにけれ新こそられ月と月とはあるこゝ月のあるこゝ　教秀

雪の長六月と花こゝのみなまれなるこゝ　信宗卿

夢ゝ月なれはてもあらさはれ秋の宿りやせてこゆん　宋世

ちゝくなくこゝとをとりの長はいとゝ秋のかゝ　信教

とをこゝ方ゝ仏の名をとりの長はいとゝ秋のかゝ　信教

琴の法はいつれこゝまをりれ花ゝ月よ宿ゝ　信宗

こゝ聞くこゝれこゝ五更二れこゝ月とこゝ人をこゝ　定俊

月と月とあしはこゝ人をこゝ人をこゝ人をこゝ　光俊

いくこゝ世こゝかをこゝあこゝ人をこゝ人をこゝ　宗瀬

小れこゝくこゝ山をねこゝ人をこゝ人をこゝ　空瀬

山のこゝれこゝこゝ人をこゝ人をこゝ人をこゝ　道空

巳上月

詠歌集

月　花法

同　よしたかの山ぶきよりなりたりしかの家所なる　日
同　遠方のいく代をへていとわかんいつのみたちたのこれる　同
文明十三十八　まさるよりもとしわかつのみたれ雅たかいとうれりあり　はたはたの
　　名もそれをたかすみなこうりをたれ数をれ物をくうう　勝仁
祈　雪ふるいくはるわかやみ中よ今も禁ぬるいら紙　はるか
同　雪とうるも月よりうしたれきりこ枝でるのみはさ山　同
　　月とりもぬるれそやとうたれきりのとうるかく　わ愛
登集眼　渓根はりうるねこそうるれようれうる我なり式　義篤
同　枝うるれ花ぬりうるいるうて変うりたにのるれ入元　同
同　面のうち変よ花のおまつくらうてしを度ぬぬ　同
同　うるれりとうかるたれうるお意ぬとそに変ぬまるまて　同
文亀二八　きたれるたいしぬとう金の禁ぬ小田のおうまる　直遠
永正十七　まもしるうるかるかれ家ぬ花ぬ芋根うりまるうる三家す　同
同　ぬうるれかれるれ葉ぬとうれれ家ぬ花根　政為

同　ちりうるれ入日はよりあるうれ山ちとうる家れ神を　後徳
　　ちるうるれ家ぬにしまるうや三家の山ぬ見はみくうん　直遠
　　咲しりるわれ山の花風ようれりる神しちるうん　政為
同　やうるうる山れ花みをありてまうれの竹よるるうるく　本上天皇
登集眼　あるうるるれうるうて山ぬて消うるみうれ家ぬ　本上天皇
文明十三十八　ちうるうるれ山ぬ神しるとしりるれ家ぬ花ぬ　為家
同　あるみうりかくうれ家ぬうるうて高ぬうとうるれうて　為家
登集服　山陰ぬ出るるうるうるれうる木家ぬとくしまそうり　基俊
　　人とるうるれ宿ぬうれ山れくうり奥ぬ岩ぬうるうる　為家
　　人ぬ家ぬれるうるうとるうるるるるるるるるるるる　為家
文亀二八　海るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　為家
　　月るるくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　為遠
　　一るるぬ海るるるるるるるるるるるるるるるるるるる　政為

遠江　遠州　厚狩　親鸞　視線　猿

[illegible]

永享二十　文明十三　十八　同

[illegible]

文明十三　十八　同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内閣文庫

寛元禄十六癸未歳孟春上旬梓行
京師三條通升屋町
御書物所
出雲寺和泉掾

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan